

## 令和 6 年度 奈良市母子保健推進会議の意見の概要

|            |   |
|------------|---|
| 開催日時       | 令和 6 年 9 月 5 日（木）午後 3 時から午後 4 時 30 分まで      |
| 開催場所       | 奈良市保健所・教育総合センター3 階 大会議室                     |
| 意見等を求める内容等 | ▶ 奈良市母子保健計画の最終評価について<br>▶ 次期母子保健活動計画（案）について |
| 参加者        | 出席者 7 人 ・ 事務局 10 人                          |
| 開催形態       | 公開（傍聴人なし）                                   |
| 担当課        | 奈良市健康医療部母子保健課                               |

### 意見等の内容の取りまとめ

事務局により奈良市母子保健計画最終評価、次期奈良市母子保健活動計画（案）の説明後、出席者に意見等を求めた。

<意見を求めた内容及びそれらに対する意見等>

次期 奈良市母子保健活動計画（案）について、出席者からは以下のような意見があった。

<周産期>

- ・次期計画では、妊娠届出をしない人を減らすことが課題である。届出をしない理由は個別にはわからないが、（動機づけとしては）学校の（性）教育につながるかもしれない。妊娠届出のメリットを確実に伝えられることが大切だと思う。
- ・産後うつや特定妊婦の支援に関して、心療内科や精神科の専門家の意見を取り入れながら、妊娠期からの対策をとる必要があるのではないかと。
- ・産後うつなど、母親の精神疾患がベースにあり、子育てに悩み、対応できないことがあり、継続して支える必要性を感じている。

<乳幼児・思春期>

- ・発達障害などは原因が明確でないにも関わらず、母親は妊娠期の過ごし方が悪かったのではと自身を責めてしまうことがある。そういう母親の気持ちも考慮の上での支援が大切。
- ・ネットや SNS の普及で得られる情報が多いが、それゆえに悩んでいる保護者が増えており、気軽に利用できる子育て広場の役割は大きい。育休取得する父親が増えており、助け合って上手く育休を活用できる保護者がいる一方、育児観の違いや育休終了後の不安感に悩む保護者がいる。
- ・育てにくさを抱える親子は広場を通じて母子保健課の保健師と繋がる機会になっている。
- ・子ども達に、性についての正しい知識や性行為の先の妊娠する可能性、妊娠をすれば選択を迫られることがあることを前提として行動することの大切さを伝えている。また、「NO」と言っても良いことや、性被害にあわないために正しい知識を持つことは、自分や友人を守ることに繋がりつつあるということも伝えていきたい。
- ・親が性教育をきちんと受けていない家庭も多い。中学生になると思春期に入り、親子での会話が取りにくいことも多い。助産所では小学生の間に親子で性教育を受けてもらい、親子でコミュニケーションを取れるよう設定している。性の話は、助産師だけでなく、他の職種でもできるものではないかと感じている。
- ・日本小児科学会では 5 歳児健診を推進していこうという風潮があり、行政としても考えてほしい。
- ・学童期や思春期は様々な知識や教育を広めるのは学校だと思う。今後奈良市全体で、どんな事業を展開していけるのか連携しながら考えていきたい。
- ・こども家庭庁ができたが、奈良市も（縦割り）で分断されている。母子保健、健康管理、学校保健など、「子ども」というところで垣根をこえて考えてほしい。